

【伊藤総領事メッセージ 2018年5月】

4月のカナダでは、国民を大きく悲嘆させる痛ましい事件が2件も起こりました。一つは4月6日、サスカチュワン州を拠点とするアイスホッケーのジュニア・チームであるフンボルト・ブロンコスの選手や関係者を乗せたバスが交通事故に遭い、10代の選手を含む16名が死亡、13名が負傷した事件です。国民的スポーツであるアイスホッケーの将来のスター達がバスでの移動中に亡くなったこの事件は、カナダではどこでもあり得る事件だと国中が悲しみにくれました。玄関や庭先にホッケーのスティックを立てかけることや、アイスホッケーのジャージを着ることで選手達の追悼と連帯を示し、また遺族や被害者を支援する募金も多く集まりました。



この事件の悲しみも癒えない中、4月23日の白昼にトロント市北部において、レンタカーのバンが歩道を2キロ以上にわたって暴走し、10名が死亡、16名が負傷するという事件が起きました。フンボルト・ブロンコスの事件では、誰が乗客であったかはすぐに特定できたのですが、死亡者と負傷者を取り違えて発表されるという事態が生じていました。これに対しトロントの事件では、路上の一般市民が巻き込まれ、

また多民族国家のカナダの中でも特に多くの民族が共生しているトロント市での出来事であり、被害者の確認が慎重に行われて時間がかかり、名前はなかなか公表されませんでした。

当総領事館でも対策本部を立ち上げ、日本人の被害者がいないかについて情報収集に努めると共に、在留届を提出されている方や旅レジに登録されている方々に「領事メール」を発送し、この事件に関する情報の提供を行い、マスコミからの照会にも対応しました。事件のあった場所は日本人の家族も多く住んでいる地域ですが、幸いなことに日本人の死傷者はありませんでした。

今回、緊急に発送された領事メールを見て初めて事件の発生を知り、従業員や家族の無事を至急確認することが出来た、という日系企業の方々からの声もお聞きし、また領事メールを受け取って、自分たちが世話をしている日本人留学生の無事を総領事館に連絡して下さった方々もいらっしゃいました。このような事態に備え、在留届の提出、旅レジの登録を改めて皆様にお願ひしたいと思います。



実際、今回の事件の犠牲者の中には、息子に会うためにトロントを訪問中であったヨルダンの男性や、韓国人の留学生が含まれていました。日本人の方々も短期間の旅行に出られる場合には旅レジを、また3ヶ月以上外国に滞在される場合には在留届を出して頂くことで、



今回のような場合に連絡をお届けしたり安否確認をすることができますので、是非ご利用願ひます。また、トロント総領事館に在留届を既に提出済みであるものの、オンタリオ州以外の地域に出張や旅行をされる場合には、訪問先で緊急事態等が生じる場合もありますので、旅レジの登録をお願ひします。

今回のトロントの事件は、組織的なテロリストの関与はないと言われています。かつて日本でも2007年に「秋葉原通り魔事件」が発生し、7名が死亡、10名が負傷したことがありました。日本のように世界で最も安全と言われる都市においてもこのような惨事が起きるのですから、海外で生活をされる際にも、安全への注意を常に怠らないようお願いいたします。

折しも4月から外務省のホームページでは、「ゴルゴ13の中堅・中小企業向け海外安全対策マニュアル」の動画が週に1話ずつ公表されています。これは、昨年公表された劇画版を動画化して配信しているもので、それぞれのエピソードには漫画編と解説編があります。中堅・中小企業の方々に限らず、短期旅行者、留学生、海外で生活される方々にも役に立つエピソードがありますので、参考にして頂ければ幸いです。ちなみにゴルゴ13の声は俳優の舘ひろしさんが、また第1話に登場する外務大臣の声は河野太郎外務大臣御自身が吹き込んでいます。



トロント北部の事故現場では、人々からの花束やメッセージが数多く寄せられています。トロント駐在の領事団として献花をする機会があり、私も日本の総領事として花束を添えて参りました。また4月29日の夕刻には、気温6度の寒さの中で、ペリエット総督やトルドー首相も出席してトロント市民による追悼式が行われました。このような惨事に負けることなく、トロントは強くなるのだ、憎しみではなく愛を、という市民からの強いメッセージが印象的でした。

という市民からの強いメッセージが印象的でした。

